

第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」策定に関する
有識者会議の主な意見について（検証部分）

<基本目標のKPI>

- 女性のほうが東京に一極集中して地元に戻らないという傾向が非常に強く、子育て環境だけでなく、魅力的な仕事や働き方という観点において女性に対しての施策をしっかりとやっていかなければいけない。仕事と女性という観点で人口移動というものを検証する、地域ごとの賃金、就業率、地域の方針・意思決定過程への（特に若年）女性の参画など男女格差というものに関して分析、検証するという視点も取り入れていただきたい。
- 第2期に向けて、未達成の項目についてしっかりした要因分析を行うことが重要。特に、東京一極集中などは、その要因分析をしたうえで、有効な施策を見出す必要がある。

<東京一極集中の是正>

- 離職のタイミングで、東京から地元に戻ってきて、地元の企業に勤めることもある。この辺をターゲットとして、東京一極集中の是正につなげることはできないか。
- 金融産業面から見ると、コミュニティーではマーケット規模を賄い切れないため、東京一極集中を是正するためには、多極化が必要。札幌、仙台、広島、福岡のような地方の大都市をはじめとした中枢中核都市や、人口10万人前後の都市をどのように機能強化を図るか検討するべきである。
- 過度な東京一極集中の是正については、民間と連携した取組が重要。行政と経済界が協働して活動する組織体をつくり、様々な施策を実行する必要があるのではないか。まずは議論をしたり、意見を聞いたりすることから始めるべきではないか。
- 東京一極集中の是正については、東京と地方の対立構造で捉えるのではなく、東京と地方がともに栄える形で、日本全体での成長を考えていく必要があるのではないか。
- 首都直下型地震の懸念がある中で、レジリエンスの観点からも、地方に大企業の従業員をある程度移すことは理にかなっているが、その際、単身赴任が多くなってしまいう傾向にある。地方の教育が東京の教育に対応しきれていない可能性があるのではないか。

<三本の矢の検証>

（情報支援）

- RESASについては、施策立案まで、まだうまくつながっていないという課題がある。このため、例えば、地域内外の所得の流れを、広域的な経済圏単位で分析等ができるような機能を盛り込むことが有効ではないか。
- RESASを活用すると、各地域の経済状況の分析が詳細にでき、都市の置かれている状況や課題を浮き彫りにした上で、処方箋を描くことができる。第2期「総合戦略」の中でも、データに立脚した処方箋づくりを推奨していくべきである。

(財政支援)

- 地方創生関係の予算については、複数年度にわたる継続的な支援が重要。地方創生事業は1年などの短期で完結するものはほとんどないので、地域の自助努力を基本としながらも、中長期の目標と時間軸を見据えた展開ができるような仕組みを工夫していただきたい。
- 地方創生推進交付金の使途について、民間主導の取り組みに対して、メリハリをつけた重点化を検討していただきたい。

<地方版総合戦略の検証>

- 地方版総合戦略策定に当たって外部の機関に丸投げしているところはなかったということであったが、一方で、8割以上の自治体は何らかの形で外部委託をしており、実質的にどの程度自治体が主体性を発揮して策定していたのか判断しにくい面がある。今後は、KPIの立て方や、効果検証のあり方等を含め、主体的に地方版総合戦略を策定するよう自治体に促していく必要がある。
- 地方版総合戦略の策定に関する検証に当たっては、住民参加がどこまで果たせたのかといった観点が重要である。

<その他>

- 地方創生の第1期において、地域の内発的発展を誘発させることができていたのかを検証すべきである。第2期においては、自治体や、コミュニティーレベルで、内発的発展を実現できるような仕組みを検討すべきである。